

寺山修司

田園ハ死す

フィルムアート社



田園に死す

発行 一九七五年一月三十日

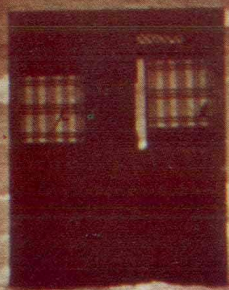
著者 寺山修司
装幀 栗津潔

発行所 株式会社フィルムアート社
東京都新宿区三栄町十八番地
郵便番号 一六〇
電話 三五七―〇二八三
振替口座 東京七三八一八
印刷所 幸進社印刷株式会社
写植 株式会社富士巧芸
製本所 株式会社王冠製本印刷社

寺山修司

田園に死す

フィルムアート社



目次

シナリオ・田園に死す 13

演出ノート

一九七四年十月三日クランク・インまでの断片 寺山修司

116

スタッフ・キャスト 132

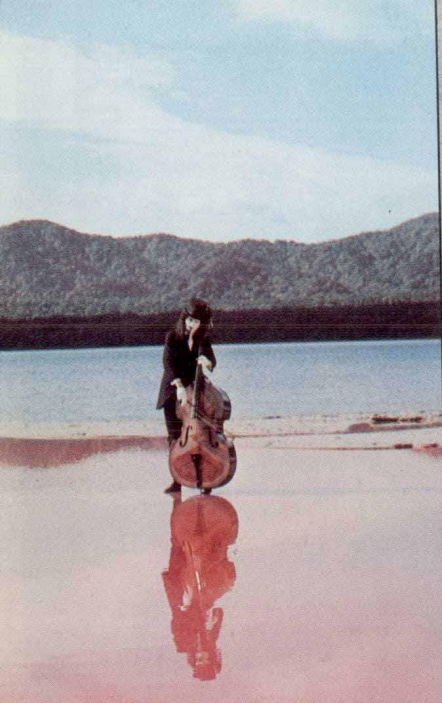
解説・風景の呪縛 松田修 134

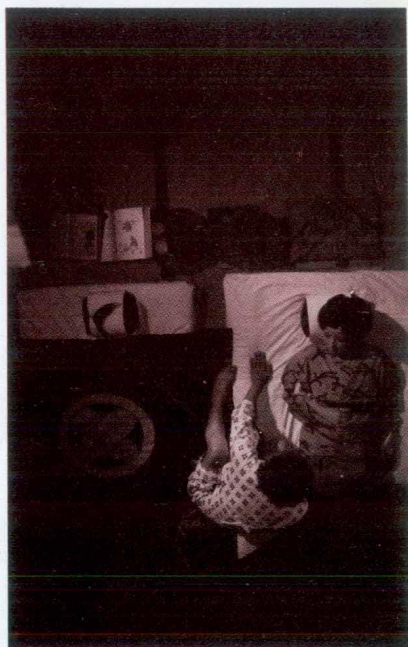
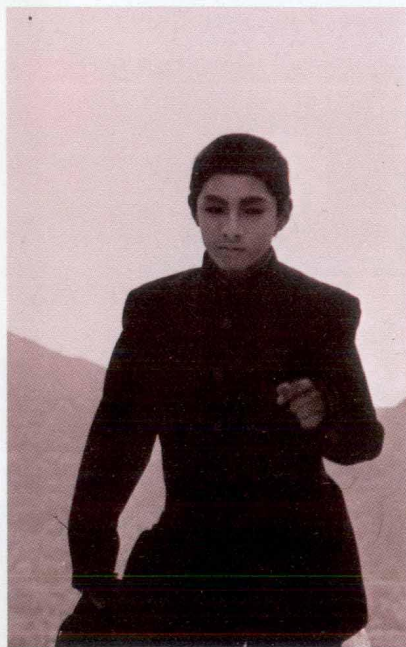
歌集・田園に死す 145

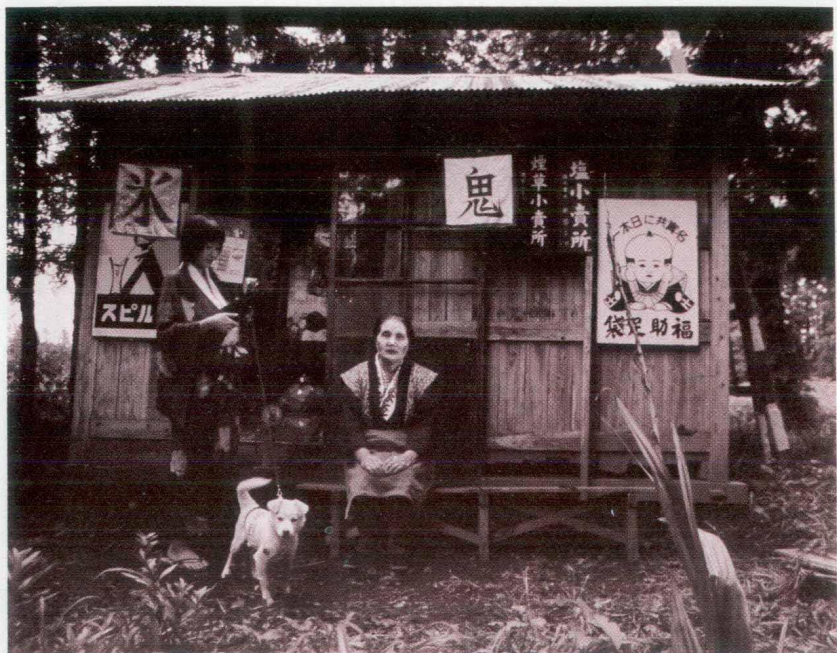
写真撮影 佐木信夫

これはこの世のことならず、死出の山路のすそ野なる、さいの河原の物語、十にも足らぬ幼な児が、さいの河原に集まりて、峰の嵐の音すれば、父かと思ひよぢのぼり、谷の流れをきくときは、母かと思ひはせ下り、手足は血潮に染みながら、川原の石をとり集め、これにて回向の塔をつむ、一つつんでは父のため、二つつんでは母のため、兄弟わが身と回向して、昼はひとりで遊べども、日も入りあひのその頃に、地獄の鬼があらはれて、つみたる塔をおしくす。

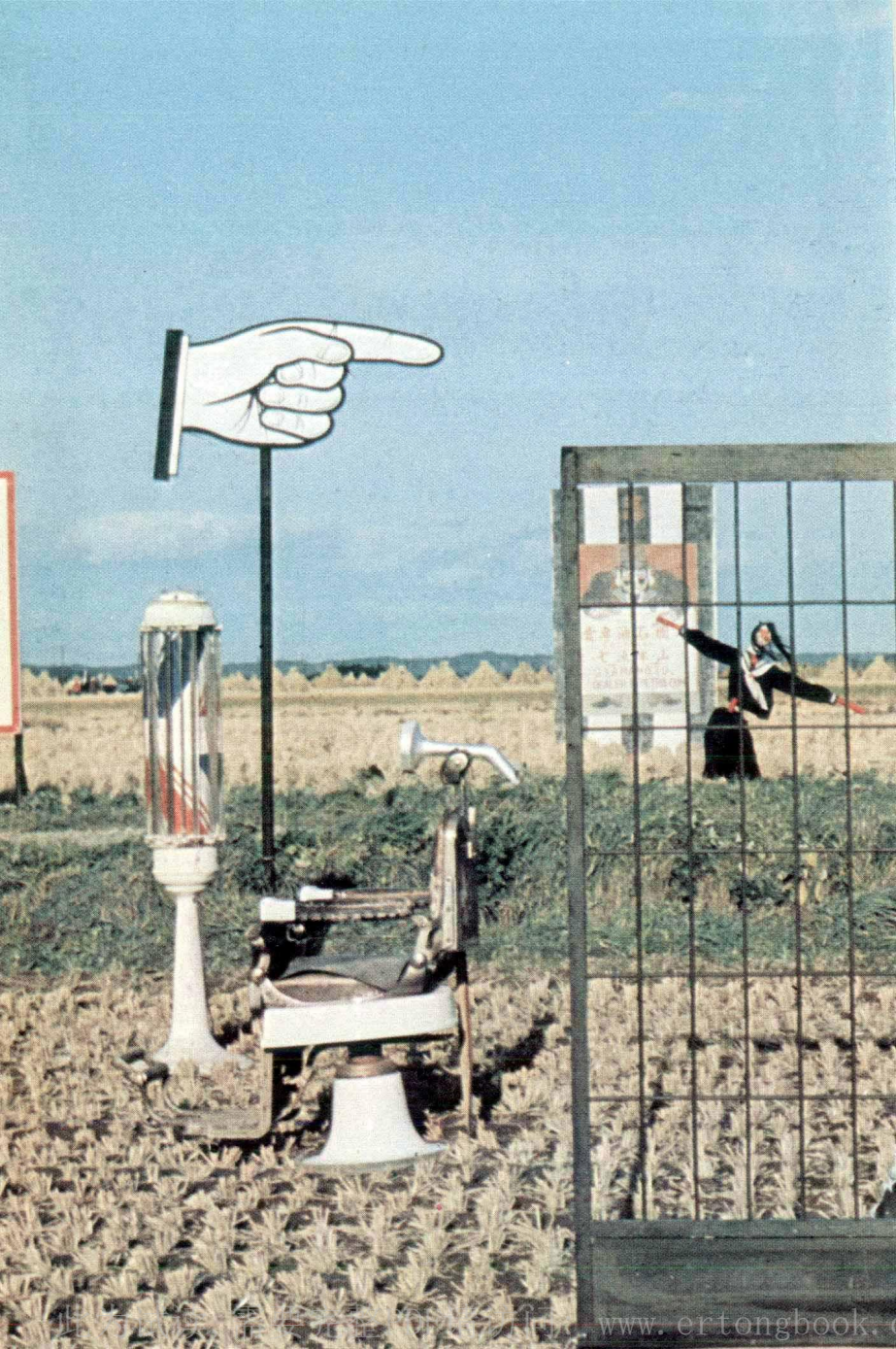
わが一家族の歴史「恐山和讃」





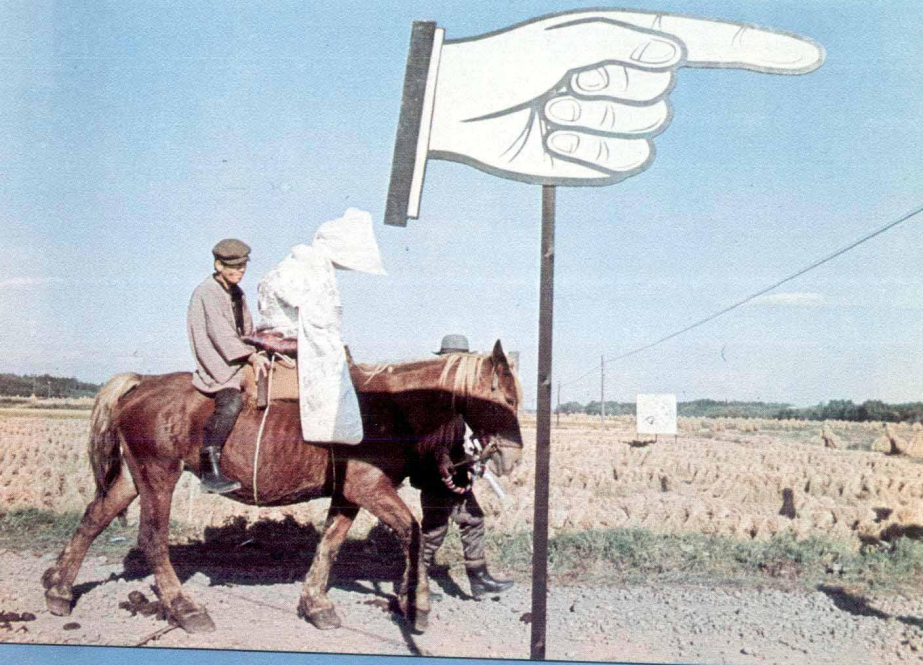












人力飛行機舎十日本アーティスト・ギルド提携
寺山修司 一九七四年作品

シナリオ 田園に死す

ノート

これは一人の青年の自叙伝の形式を借りた虚構である。

われわれは歴史の呪縛から解放されるためには、何よりも先ず、個の記憶から自由にならなければならない。この映画では、一人の青年の「記憶の修正の試み」をとおして、彼自身の（同時にわれわれ全体の）アイデンティティの在所を追求しようとするものである。



●大暗黒

和歌がスーパ・インポーズ、音読される。

大工町米町寺町仏町老母買う町あらずやつばめよ

新しき仏壇買ひに行きしまま行方不明のおとうとと鳥

からすの群れ鳴く声！

●墓地

おかっぱの女の子が正面を向いて、目かくししながら、「もういいかい？」子供たち、草深い墓地の中にかくれる。「まあだだよ」低く、長閑にピアノの音。遠い日の記憶のように。秋海棠、萩、桔梗。

鬼の女の子、目かくししたまま、もう一度、「もういいかい？」

がらんとして、誰も見えない墓地の卒塔婆や墓標のかげから、「もういいよ」という声がきこえる。

鬼の女の子、目かくしをとると、ゆっくりとあらわれてくる子供たち、いつのまにか皆、大人になってしまっている。郵便配達人、